

21

²³イエスが宮にはいられたとき、祭司長たちや民の長老たちが、その教えておられる所にきて言った、「何の権威によつて、これらの事をするのですか。だが、そうする権威を授けたのですか」。

²⁴そこでイエスは彼らに言われた、「わたしも一つだけ尋ねよう。あなたがたがそれに答えてくれたなら、わたしも、何の権威によつてこれらの事をするのか、あなたがたに言おう。

²⁵ヨハネのバプテスマはどこからきたのであつたか。天からであつたか、人からであつたか」。すると、彼らは互に論じて言った、「もし天からだと言えば、では、なぜ彼を信じなかつたのか、とイエスは言うだろう。

²⁶しかし、もし人からだと言えば、群衆が恐ろしい。人々がみなヨハネを預言者と思つているのだから」。

²⁷そこで彼らは、「わたしたちにはわかりません」と答えた。すると、イエスが言われた、「わたしも何の権威によつてこれらの事をするのか、あなたがたに言うまい。

21

²⁸あなたがたはどう思うか。ある人にふたりの子があつたが、兄のところに行つて言った、『子よ、きょう、ぶどう園へ行つて働いてくれ』。

²⁹すると彼は『おとうさん、参ります』と答えたが、行かなかつた。

³⁰また弟のところをきて同じように言った。彼は『いやです』と答えたが、あとから心を変えて、出かけた。

³¹このふたりのうち、どちらが父の望みどおりにしたのか」。彼らは言った、「あとの者です」。イエスは言われた、「よく聞きなさい。取税人や遊女は、あなたがたより先に神の国にはいる。

³²というのは、ヨハネがあなたがたのところをきて、義の道を説いたのに、あなたがたは彼を信じなかつた。ところが、取税人や遊女は彼を信じた。あなたがたはそれを見たのに、あとになつても、心をいれ変えて彼を信じようとしなかつた。

33 もう一つの譬を聞きなさい。ある所に、ひとりの家の主人がいたが、ぶどう園を造り、かきをめぐらし、その中に酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。

34 収穫の季節がきたので、その分け前を受け取ろうとして、僕たちを農夫のところへ送った。

35 すると、農夫たちは、その僕たちをつかまえて、ひとりを袋だたきにし、ひとりを殺し、もうひとりを石で打ち殺した。

36 また別に、前よりも多くの僕たちを送ったが、彼らをも同じようにあしらった。

37 しかし、最後に、わたしの子は敬つてくれるだろうと思つて、主人はその子を取らぬ所につかわした。

38 すると農夫たちは、その子を見て互に言った、『あれはあと取りだ。さあ、これを殺して、その財産を手に入れよう。』

39 そして彼をつかまえて、ぶどう園の外に引き出して殺した。

40 このぶどう園の主人が帰ってきたら、この農夫たちをどうするだろうか。

41 彼らはイエスに言った、『悪人どもを、皆殺しにして、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに、そのぶどう園を貸し与えるでしょう。』

42 イエスは彼らに言われた、『あなたがたは、聖書でまだ読んだことがないのか、『家造りらの捨てた石が隅のかしら石になった。これは主がなされたことで、わたしたちの目には不思議に見える。』

43 それだから、あなたがたに言うが、神の国はあなたがたから取り上げられて、御国にふさわしい実を結ぶような異邦人に与えられるであろう。

44 またその石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみじんにされるであろう。』

45 祭司長たちやパリサイ人たちがこの譬を聞いたとき、自分たちのことをさして言っておられることを悟つたので、

46 イエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者だと思つていたのである。

1 イエスはまた、譬で彼らに語つて言われた、

2 「天国は、ひとりの王がその王子のために、婚宴を催すようなものである。

3 王はその僕たちをつかわして、この婚宴に招かれていた人たちを呼ばせたが、その人たちはこようとほしなかつた。

4 そこでまた、ほかの僕たちをつかわして言つた、『招かれた人たちに言いなさい。食事の用意ができました。牛も肥えた獣もほふられて、すべての用意ができました。さあ、婚宴においでください。』

5 しかし、彼らは知らぬ顔をして、ひとりはお自分の畑に、ひとりはお自分の商売に出て行き、

6 またほかの人々は、この僕たちをつかまえて侮辱を加えた上、殺してしまつた。

7 そこで王は立腹し、軍隊を送つてそれらの人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払つた。

8 それから僕たちに言つた、『婚宴の用意はできているが、招かれていたのは、ふさわしくない人々であつた。』

9 だから、町の大通りに出て行つて、出会つた人はだれでも婚宴に連れてきなさい。』

10 そこで、僕たちは道に出て行つて、出会う人は、悪人でも善人でもみな集めてきたので、婚宴の席は客でいっぱいになつた。

11 王は客を迎えようとしてはいつてきたが、そこに礼服をつけていないひとりの人を見て、

12 彼に言つた、『友よ、どうしてあなたは礼服をつけないで、ここにはいつてきたのですか。』しかし、彼は黙つていた。

13 そこで、王はそばの者たちに言つた、『この者の手足をしばつて、外の暗やみにほうり出せ。そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。』

14 招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない。』

15 そのときパリサイ人たちがきて、どうかしてイエスを言葉のわなにかけようと、相談をした。
 16 そして、彼らの弟子を、ヘロデ党の者たちと共に、イエスのもとにつかわして言わせた、「先生、わたしたちはあなたが真実なかたであって、真理に基いて神の道を教え、また、人に分け隔てをしないで、だれをもはばかられないことを知っています。
 17 それで、あなたはどう思われますか、答えてください。カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか」。
 18 イエスは彼らの悪意を知って言われた、「偽善者たちよ、なぜわたしをためそうとするのか。
 19 税に納める貨幣を見せなさい」。彼らはデナリ一つを持ってきた。
 20 そこでイエスは言われた、「これは、だれの肖像、だれの記号か」。
 21 彼らは「カイザルのです」と答えた。するとイエスは言われた、「それでは、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」。
 22 彼らはこれを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。

23 復活ということはないと主張していたサドカイ人たちが、その日、イエスのもとにきて質問した、
 24 「先生、モーセはこう言っています、『もし、ある人が子がなくて死んだなら、その弟は兄の妻をめぐって、兄のために子をもうけねばならない』。
 25 さて、わたしたちのところに七人の兄弟がありました。長男は妻をめぐってが死んでしまい、そして子がなかったので、その妻を弟に残しました。
 26 次男も三男も、ついに七人とも同じことになりました。27 最後に、その女も死にました。
 28 すると復活の時には、この女は、七人のうちだれの妻なのでしょう。みんながこの女を妻にしたのですか」。
 29 イエスは答えて言われた、「あなたがたは聖書も神の力も知らないから、思い違いをしている。
 30 復活の時には、彼らはめとつたり、とついたりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである。
 31 また、死人の復活については、神があなたがたに言われた言葉を読んだことがないのか。
 32 『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と書いてある。神は死んだ者の神ではなく、生きてゐる者の神である」。
 33 群衆はこれを聞いて、イエスの教に驚いた。

34 さて、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを言いこめられたと聞いて、一緒に集まった。
 35 そして彼らの中のひとりの律法学者が、イエスをためそうとして質問した、
 36 「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」。
 37 イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。
 38 これがいちばん大切な、第一のいましめである。
 39 第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。
 40 これらの二つのいましめに、律法全体と預言者たちが、かかっている」。

41 パリサイ人たちが集まっていたとき、イエスは彼らにお尋ねになった、
 42 「あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか」。彼らは「ダビデの子です」と答えた。
 43 イエスは言われた、「それではどうして、ダビデが御霊に感じてキリストを主と呼んでゐるのか。
 44 すなわち『主はわが主に仰せになった、あなたの敵をあなたの足もとに置くときまでは、わたしの右に座していなさい』。
 45 このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでゐるなら、キリストはどうしてダビデの子であろうか」。
 46 イエスにひと言でも答える者は、なかったし、その日からもはや、進んでイエスに質問する者も、いなくなつた。

1 そのときイエスは、群衆と弟子たちとに語って言われた、
 2 「律法学者とパリサイ人とは、モーセの座にすわっている。
 3 だから、彼らがあなたがたに言うことは、みな守って実行しなさい。しかし、彼らのすることには、ならうな。彼らは言うだけで、実行しないから。
 4 また、重い荷物をくくって人々の肩にのせるが、それを動かすために、自分では指一本も貸そうとはしない。
 5 そのすることは、すべて人に見せるためである。すなわち、彼らは経札を幅広くつくり、その衣のふさを大きくし、
 6 また、宴会の上座、会堂の上席を好み、
 7 広場であいさつされることや、人々から先生と呼ばれることを好んでいる。
 8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはならない。あなたがたの先生は、ただひとりであつて、あなたがたはみな兄弟なのだから。
 9 また、地上のだけをも、父と呼んではならない。あなたがたの父はただひとり、すなわち、天にいます父である。
 10 また、あなたがたは教師と呼ばれてはならない。あなたがたの教師はただひとり、すなわち、キリストである。
 11 そこで、あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならぬ。
 12 だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであらう。

13 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは、天国を閉ざして人々をはいらせない。自分もはいらないし、はいろうとする人はいらせもしない。」
 14 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは、やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。だから、もつときびしいさばきを受けるに違いない。」
 15 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたはひとりの改宗者をつくるために、海と陸とを巡り歩く。そして、つくったなら、彼を自分より倍もひどい地獄の子にする。
 16 盲目な案内者たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは言う、『神殿をさして誓うなら、そのままでよいが、神殿の黄金をさして誓うなら、果す責任がある』と。
 17 愚かな盲目な人たちよ。黄金と、黄金を神聖にする神殿と、どちらが大事なのか。
 18 また、あなたがたは言う、『祭壇をさして誓うなら、そのままでよいが、その上の供え物をさして誓うなら、果す責任がある』と。
 19 盲目な人たちよ。供え物と供え物を神聖にする祭壇とどちらが大事なのか。
 20 祭壇をさして誓う者は、祭壇と、その上にあるすべての物とをさして誓うのである。
 21 神殿をさして誓う者は、神殿とその中に住んでおられるかたとをさして誓うのである。
 22 また、天をさして誓う者は、神の御座とその上にすわっておられるかたとをさして誓うのである。
 23 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。はつか、いのんど、クミンなどの薬味の十分の一を宮に納めておりながら、律法の中でもっと重要な、公平とあわれみと忠実とを見のがしている。それもしなければならぬが、これも見のがしてはならない。
 24 盲目な案内者たちよ。あなたがたは、ぶよはこしているが、らくだはのみこんでいる。
 25 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。杯と皿との外側はきよめるが、内側は貪欲と放縦とで満ちている。
 26 盲目なパリサイ人よ。まず、杯の内側をきよめるがよい。そうすれば、外側も清くなるであらう。
 27 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは白く塗った墓に似ている。外側は美しく見えるが、内側は死人の骨や、あらゆる不潔なものでいっぱいである。
 28 このようにあなたがたも、外側は人に正しく見えるが、内側は偽善と不法とでいっぱいである。
 29 偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは預言者の墓を建て、義人の碑を飾り立てて、こう言っている、
 30 『もしわたしたちが先祖の時代に生きていたなら、預言者の血を流すことに加わってはいなかっただろう』と。
 31 このようにして、あなたがたは預言者を殺した者の子孫であることを、自分で証明している。
 32 あなたがたもまた先祖たちがした悪の枅目を満たすがよい。

³³へびよ、まむしの子らよ、どうして地獄の刑罰をのがれることができようか。

³⁴それだから、わたしは、預言者、知者、律法学者たちをあなたがたにつかわすが、そのうちのある者を殺し、また十字架につけ、そのある者を会堂でむち打ち、また町から町へと迫害して行くであろう。

³⁵こうして義人アベルの血から、聖所と祭壇との間であなたがたが殺したバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上に流された義人の血の報いが、ことごとくあなたがたに及ぶであろう。

³⁶よく言っておく。これらのことの報いは、みな今の時代に及ぶであろう。

³⁷ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちよ、うど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであらう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。

³⁸見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。

³⁹わたしは言っておく、『主の御名によってきたる者に、祝福あれ』

とおまえたちが言う時まで、今後ふたたび、わたしに会うことはないであろう。』